

「外国語話者を教室空間で育てるために～授業づくりワークショップ」の開催

背景・目的

一般教育科では2015年度MGUスタンダード導入に合わせて、外国語科目の新カリキュラムを開始しました。これにあわせて、多言語教育・多文化理解教育を実践することを目的とした研究会を開催し、外国語科目に関わる全ての専任・非常勤教員が共に専門的職業資質開発 (professional development) プログラムに参加する機会を設けることとしました。

実施内容

2016年1月9日(土)、公開研究会「外国語話者を教室空間で育てるために～授業づくりワークショップ」を開催しました。1年目の今年は、本学国際文化学科のマーク・ヘレガスン先生(英語)と、慶應義塾大学の國枝孝弘先生(フランス語)に講師をお引き受けいただきました。専任教員・非常勤教員・英文学科と国際文化学科の学生・英語学校経営者を合わせて39名の参加がありました。ヘレガスン先生はEnglish in 3D - Rethinking Traditional Tasks (Drills, Dictations & Dialogs)と題して、英語授業で伝統的に多用されて来たDで始まる3種類の運用練習をコミュニケーション型に行う極意を伝授して下さいました。國枝先生は8人の学生に向けた模擬授業を行い、



コミュニケーションだけ、文法だけ、文化だけ、ではなく、複数の要素が立体的に関連することで、学生の主体的な学びへと繋がると述べ、そ

のためのさまざまな工夫をお話しく下さいました。いずれも外国語を自分の言葉として自然に発することができるようになるための必要条件である「繰り返し」練習を、単純作業に陥る事なく意味重視 (meaning-focused) の学習活動として行い、その言語習得活動を同時に異文化理解促進のための活動とする実践的アイディアに溢れた、啓発的な内容でした。また、授業外での外国語の学び支援、宣言的知識と手続的知識の関係と両者をバランス良く育成することの重要性、外国語で表現する自己、などディスカッションでの話題は多岐に渡りました。



結果及び考察

参加者からのフィードバックを含め、研究会の詳細は別途報告しますが、異なる外国語を教える者たちが一同に会し、情報交換・意見交換を行う機会は斬新であった、という意見を多くいただきました。参加した学生たちから、もっと外国語を学びたくなった、外国語を学ぶ事の楽しさを再認識した、という声が聞かれたことも嬉しい副産物でした。奇しくも、教員の工夫次第で、外国語教育はより豊かになるということを物語る結果となりました。今回の研究会をMultilingual Workshopsとして継続し、外国語に関心を持つ参加者を学内外から広く募り、息の長い活動にしていきたいと考えています。